

# どの子ども安心して豊かに学べる高校教育を！

－競争を激化させ、小規模校をなくす私学助成制度の改悪に反対します－

2010年12月22日

子どもと教育・文化を守る大阪府民会議

「学習内容が多くなって勉強について行けるのか」「競争、競争で豊かな心を持った子に育つのか」「希望する高校に入れるのか」など多くの保護者の不安の声が上がっています。このような不安を解消するためには、少人数学級の実施や先生の数を増やすなどでゆきとどいた教育ができるように行政が教育条件を整備することが必要です。しかし、橋下知事はこの3年間で教育予算を583億円も削ってきました。その一方で「教育日本一」を掲げています。「未来社会の形成者としての人格・能力を育てる」という学校の目的を投げ捨て、「学力テスト」で点数を取り全国順位を上げることや「アジアでの競争にうちかてる人材育成」のため「競争教育」を強めることなどが「教育日本一」の中身です。

また、橋下知事は私学助成を大幅に削ってきました。私立小中学校への補助金は25%、私立高校への補助金は10%も削られ、今後も続く予定です。そして今、私立高校には集まった生徒数分の補助金しか出さない制度に変えようとしています。規模の小さい学校への補助金は大幅に減ってしまい、このままではなくなってしまいます。「人気のない学校は退場してもらおう」と橋下知事は言いますが、小規模校は人気がないから小さいのではありません。その学校の教育目標から小さいままにしているだけです。

さらに、難関大学に多数進学したとか、全国大会に出場したとかを「がんばった学校」とし、それらの学校には助成を加算しようとしています。このため、進学や部活動がさらに「競争」の道具にされてしまいます。「がんばった」生徒にはお金を差し出すのではなく、賞賛の拍手を送るのが教育の姿です。橋下知事はなんとしても生徒獲得競争を私立高校間で行わせようとしています。教職員は生徒獲得競争に迫られ、落ち着いて教育に取り組むことができなくなります。私立高校の教育を歪めることにつながってしまいます。

一方、私立高校の学費無償化が拡大されようとしています。その目的は「私立高校が公立高校と生徒獲得競争をすすめる上で条件を同じにする」ためです。公立高校と私立高校を「競争」させようとしています。「競争」に負けた学校は、なくなってもいいというのが橋下知事の姿勢です。

どの高校も大阪の教育で大きな役割を果たし、生徒が成長する場となっています。大規模な学校や「競争」に勝った学校だけが生き残るような制度は、教育にとっては大きなマイナスになります。様々な個性をもつ生徒がいて、その子にあった多様な学校が必要です。先生が生徒の名前も顔も覚えられないような大規模校だけではなく、その学校に通う生徒全員の名前と顔を覚えられるような小規模校も必要です。先生と生徒が日常的にふれあえる学校を必要としている生徒もたくさんいます。ひとりひとりの生徒を大切にするために、ひとつの私立高校も公立高校もなくしてはなりません。

友達と共に勉強やクラブ活動で充実した高校生活を送りたいというのが多くの子どもの願いです。希望するどの子にも高校生活の機会を保障し、豊かな高校生活を送ることができるようにするのが大阪府と国の役割です。子どもの願いを踏みにじり、学校つぶしにつながる計画は決して認められません。早急に計画の見直しを求めます。